





BLACK?

or

WHITE?



なんで
こんなことする前に
兄ちゃんに——いやあたしに
相談してくれなかつたんだよ

翼さんつ！

兄ちゃんがエロ本を
隠していた理由が
分かった
兄ちゃんはきっと
これを隠したかつたんだ！

兄ちゃんは
やっぱり悪じやない
正義だ

でもあたしには
正義とは言えね——
だからあたしは
翼さんを
悪の道から守る！

ちょ
ちよつと待つて
冷静になつて
火憐ちゃん！

どう見たつて
翼さんじやんこれ！
髪型も同じだ！

Story/多角獣
Draw/芥川まんぼう

オクヅケ？

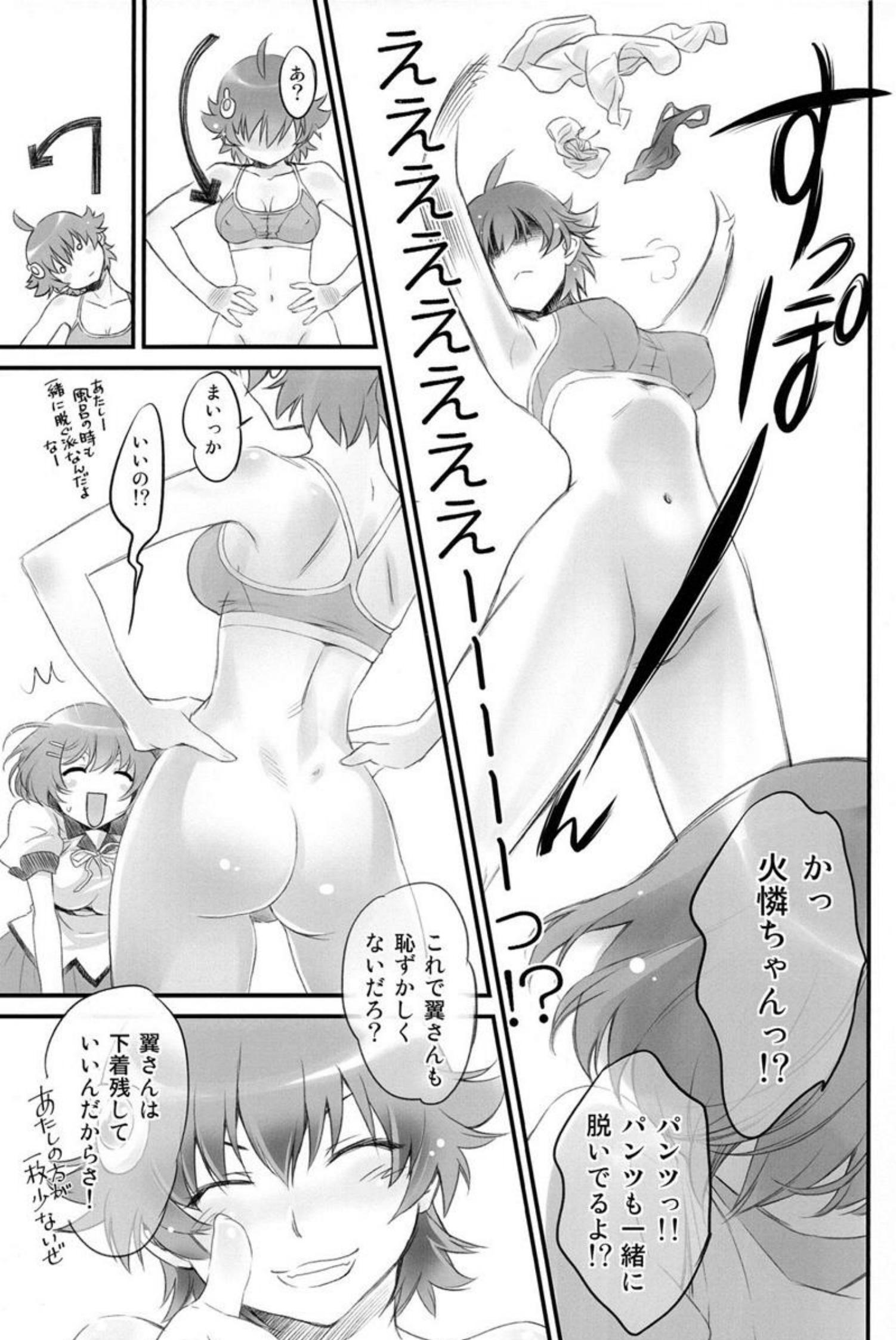
火憐ちゃん
落ち着いて
奥付を確認
してみて？

オク
グリ











…いいよ

おおお
おおおおおお

やつぱり
あたしや月火ちゃんとは
全然違うんだなあ

兄ちゃんから聞いては
想像以上っていうか

翼さん
すげーよ!!

このくらい控え目な
ポーズならまだいいか……

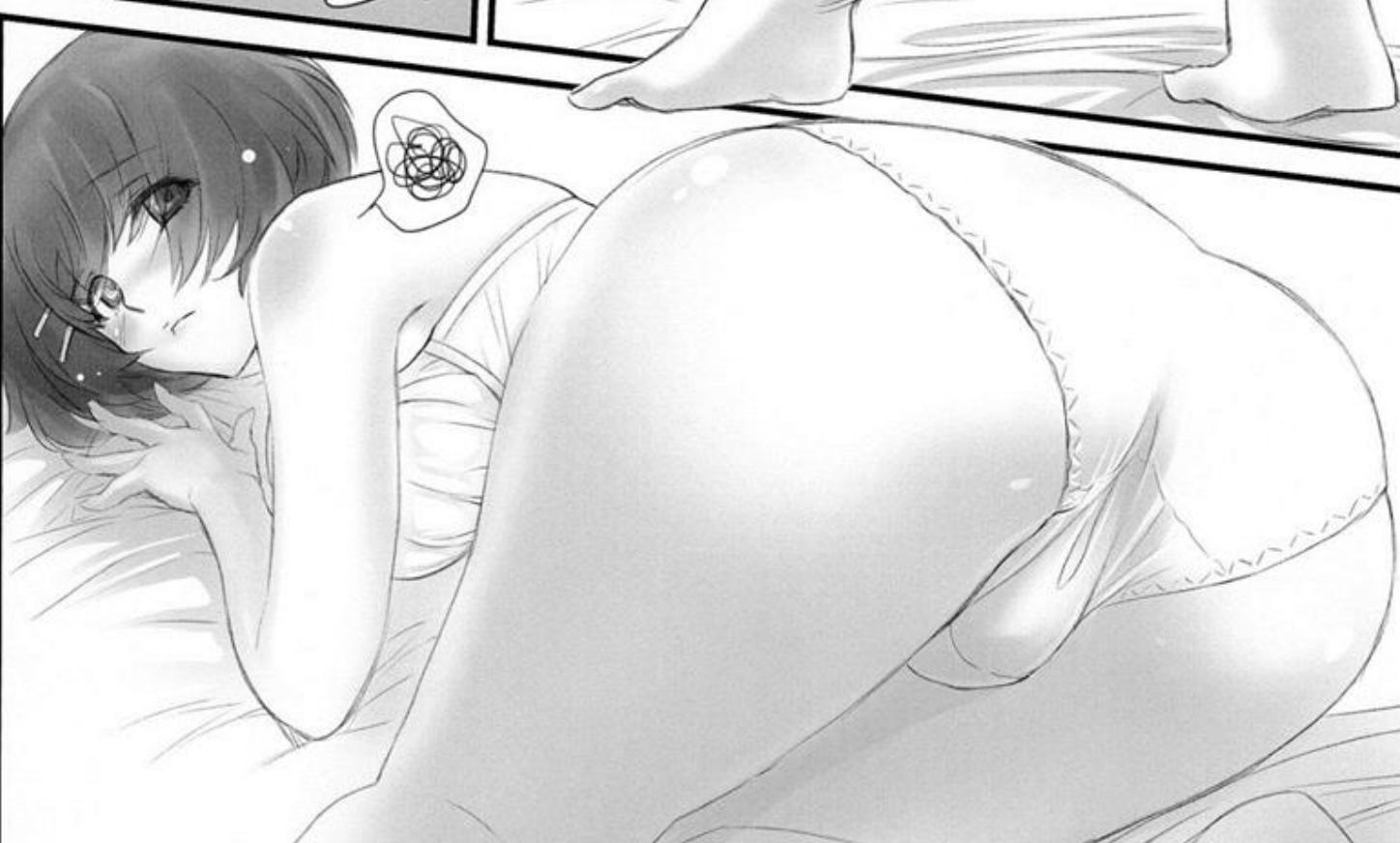
じゃあ翼さん
こいつから
行ってみようぜ

阿良々木くんは妹達に
私のなにをじんないむつに
話しているのだろう?
聞きたくないから訊かないけど

あ……ありがとう?

なのかな?





マジでエロいぜ翼さん！

いやー

あたしの目は
ダイアナだつた！

あ・次はコレでー→

自分で
女神宣言！？

次は
コレでー→

エロ♪!!
すか翼さん

エロいとか言わないで
褒め言葉じゃないからね

でもさ翼さん
あたしはエロくない方が
嫌だと思うんだけど？

エロくないって
貶し言葉じゃ
ねーかな？

エロいって女としては
褒められてる訳じゃん

あたしなんて
瑞鳥くんにすら滅多に
エロいとか言われねーし

そういうや兄ちゃんも
言わねーな

あー
傷つくぜー

彼氏とお兄さんを
同列に扱っている
ことが
驚きと同時に腑に落ちる
という不可能事を
心がやうてのけてしま





パパパンツ!?

コレ!

え? だって
ここって
阿良々木くんの部屋で
そこって
阿良々木くんのベッドで
その抽斗も
阿良々木くんの物が
入ってるんじゃないの!?

あれ? もしかして戦場ヶ原さんのか?!

これ
月火ちゃんのだよ

あ
なんだ
月火ちゃん
の!?

どうして妹さんのパンツが
阿良々木くんのパンツと一緒に収納されてるの!?

意味が分からぬ!

月火ちゃんさ
よく夜中に
兄ちゃんのベッドに潜り込むんだ
そのまま兄ちゃんの部屋で
身支度整えることも多いから
もういつそ着替え一式
こっちに置いた方が便利だつて
まつたく月火ちゃんは
いつまで経っても子供だよなー

大人だよ
完全に大人の思考だ

大丈夫

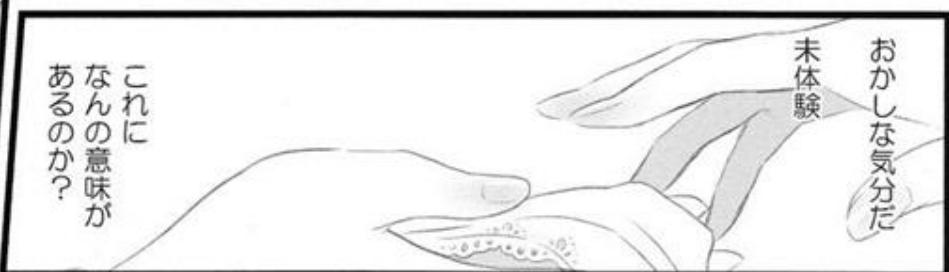
どう

あのね
火憐ちゃん
これは妹さんの
物でしょ?

下着は他人に履かれた
嫌だろし私も気が引ける
触れる場所が場所だし
Tシャツを借りるのとは
訳が違うよ

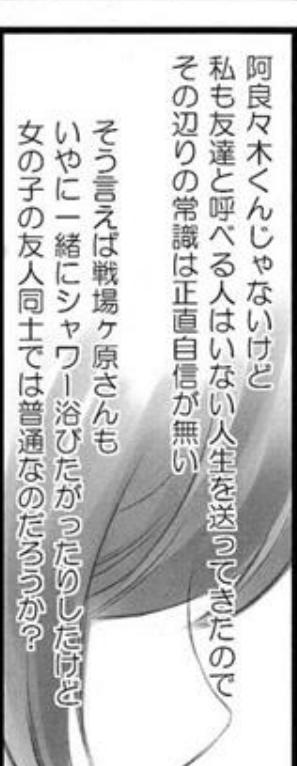
翼さん
これ履いてよ

ヤバイヤバイヤバイヤバイヤバイヤバ
イゼ!





阿良々木くんは
なにを妹に説いているの？



阿良々木くんじゃないけど
私も友達と呼べる人はいない人生を送ってきたので
その辺りの常識は正直自信が無い

そう言えば戦場ヶ原さんも
いやに一緒にシャワー浴びたがつたりしちゃけど
女の子の友人同士では普通なのだろうか?







翼さん
あたしはちゃんと触るぜ
言つたことは守る!

お兄さんより男らしい



同じような台詞を昔
チキンな人に言われたなんだけど

そのチキンな人は
なにもせず仕舞いだつのを
思い出しちやつただけだから



以前の私なら
出来たと即答するだろう

でも今の私には
確証が持てない

すげーやわらけーよ
翼さんのおっぱい

むに

そもそも
比較が出来ない

阿良々木くんと
別の誰かを
平等に比較できない

ん

むに

ぐに むに

ぐに

あれ?







阿良々木くんの
部屋で

ベッドで

目を閉じて

私は息を吸い込む

私はするい

匂いを吸い込む

私は





昔……と言つても
ついこの間だなんだけど
それ以前の私は

嫌なことを避けていたんだ

みんなが背負っているものをね
背負わなかつたの

するいでしょ

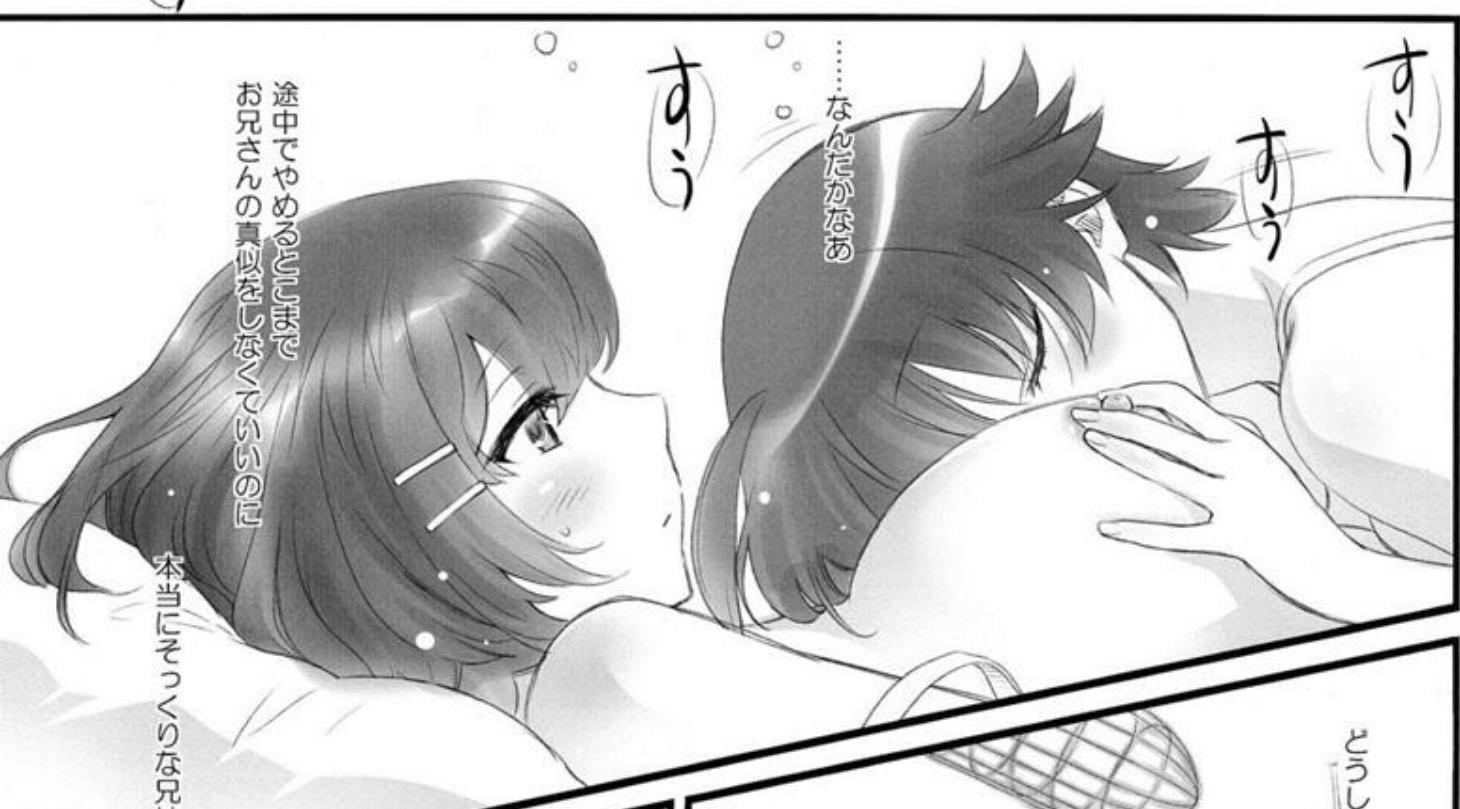
うん……
するいと思うよ

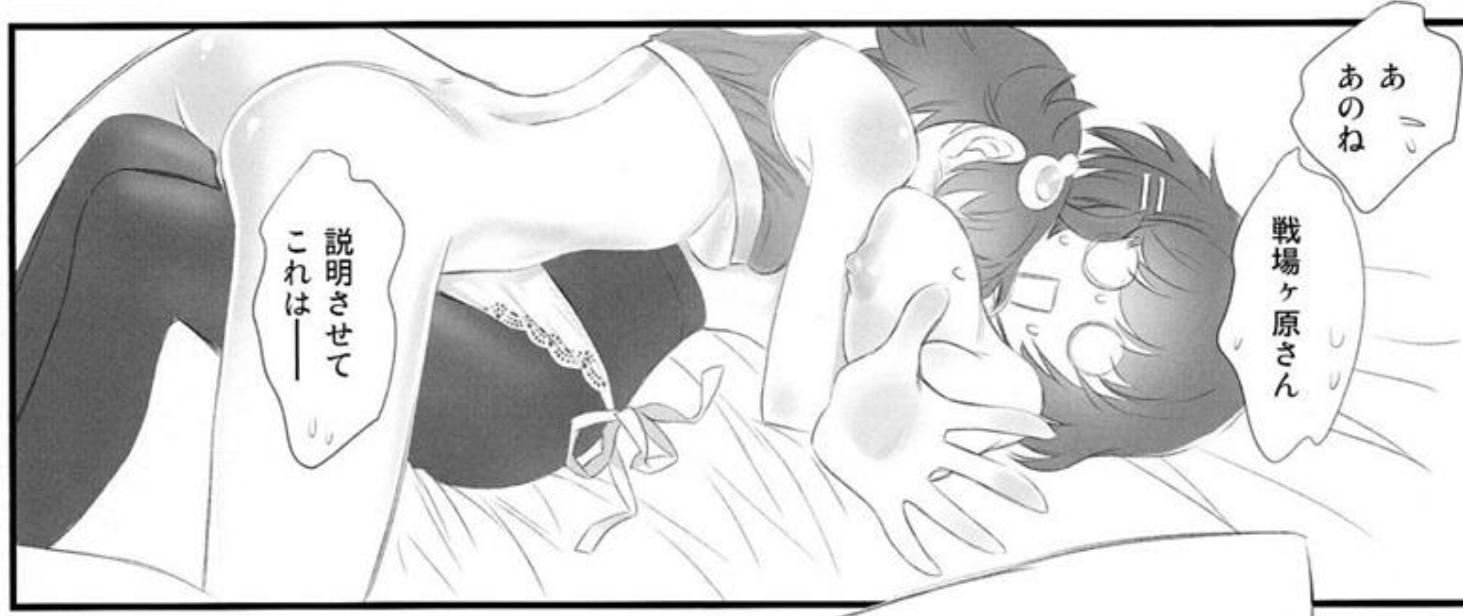


口に出ていた?



井の上阿良々木くんだ





慌てないで羽川さん
言いたいことは
分かってるわ
私達
親友でしょう？



任せて
♥

お邪魔虫は
少なくとも夜までは
私の家に監禁
——もとい
引き留めておくわ





初めて定期購読的に連続購入した雑誌は、ジャンプ、サンマーク、マガジンの三大誌ではなく百合姫だった多角獸です。

当時は百合の認知度の低さと自身の年齢もあり、えろい本を買うよりも遙かに羞恥を感じていた記憶が残っています。絶妙な背徳感でした。

絶妙と言えば、サスペンダーストッキングってどうして流行らないんでしょう？目的と仕組みが同様のガーターよりも好きなのですが、どうも日常的に使っている女性に会ったことがありません（まあ、ガーターもほとんど居ませんでしたが）。

存在すら知らない女性が多いです。尋ねて説明すると変態コス扱いです。ですが、どこか日常（ストッキング）と非日常（ガーター）の境を網渡りする雰囲気が大好きでたまりません。

自分の書く話もそんな網渡り的な感覚を表現できたらなあと思っているので、もし異常な表現や意味不明な展開があつたら「ああ、網から落ちたんだな」と察してくれれば幸いです。

postscript

難産というか、受難というかトラブル続きたいた、「つばさネコ」をやっと本にできてやーもーホッとしてます。やー良かた良かた。モタモタしてるうちに「物語シリーズ」が一応の結末を迎えてやっとあわあわしてますけど。

「オカ研スピノフ」の実現を心から願っています！

読みたい読みたい！若造時代の忍野！貝木！

余接ちゃん誕生のストーリーを！読みたすぎるー！！！

自信満々のヤツらが

「失う」物語！

読み——み——た——

い——
ぴゃ——！(駄々子)

多角獸たんの
おかげで
ぐぐりましたよ。
「サスペンダー
ストッキング」
いいいい。

芥川未ほづ



つばさネコ

presented by Bloody Okojo

Printed by_栄光様

Official HP <http://bloodyokojo.net/>

Mail_utc@blowel.sakura.ne.jp

Twitter ID_bloody_okojo



※イベントのおまけ折本用だった恒例のセルフバロまんがです。
没するのもアレなので収録してみました。

by 芥川まんぼう







